

## 住宅講演会「日本の木の住まい」 ～家づくりの知恵は伝統のなかにあった～

社会活動委員会 住宅研究会 柳田 真俊

2月28日（土）、広島市まちづくり市民交流プラザ「マルチメディアスタジオ」において、木造建築の設計・監理を主とし、家具の設計にも従事されている岐阜県高山市の上野英二氏（オークヴィレッジ木造建築研究所）を講師にお招きし、広島県建築士会住宅研究会と広島県木造住宅生産体制強化推進協議会が連携して講演会を開催しました。

今回は、学生を含む86名の方々が足を運び、熱い話に最後まで耳を傾けていました。



前述のオークヴィレッジとは、「人類と自然の共生進化」というビジョンを掲げ、「木」という再生可能な資源を活用し、伝統工法を進化させた技術を駆使して次世代まで受け継がれる作品を造り続けている組織です。

上野英二氏は、(1) 土地の気候風土を読み取り豊かな空間を創造する「設計」(2) 木をはじめ土・石・紙などの自然素材から生まれた「素材」(3) それを最大限生かす「技術」、この3つの基本的な考え方を基に、木の特性を最大限生かした家づくりを実践されています。

多数ある作品の中でも特に興味深かったのが、木造仮設住宅が復興住宅になる「合掌の家」です。この「合掌の家」は9坪の大きさで、金物等を使わない伝統的な工法を用いており、重機を使用せずに数人で組み立てることが可能です。また、一般的な仮設住宅は撤去の際には大量のゴミとなりますが、この家は最初に三角形の部分を「仮設」住宅として建て、その後その部分を2階として活用し、1階部分を新しく増築することで「復興」住宅として再利用することができます。木材を使用しているため、一般的な仮設住宅と比べて温かみがあり、心安らぐ空間となっています。



### 仮設から復興へ

～東北の地に「合掌の家」完成～

写真：齋藤 功

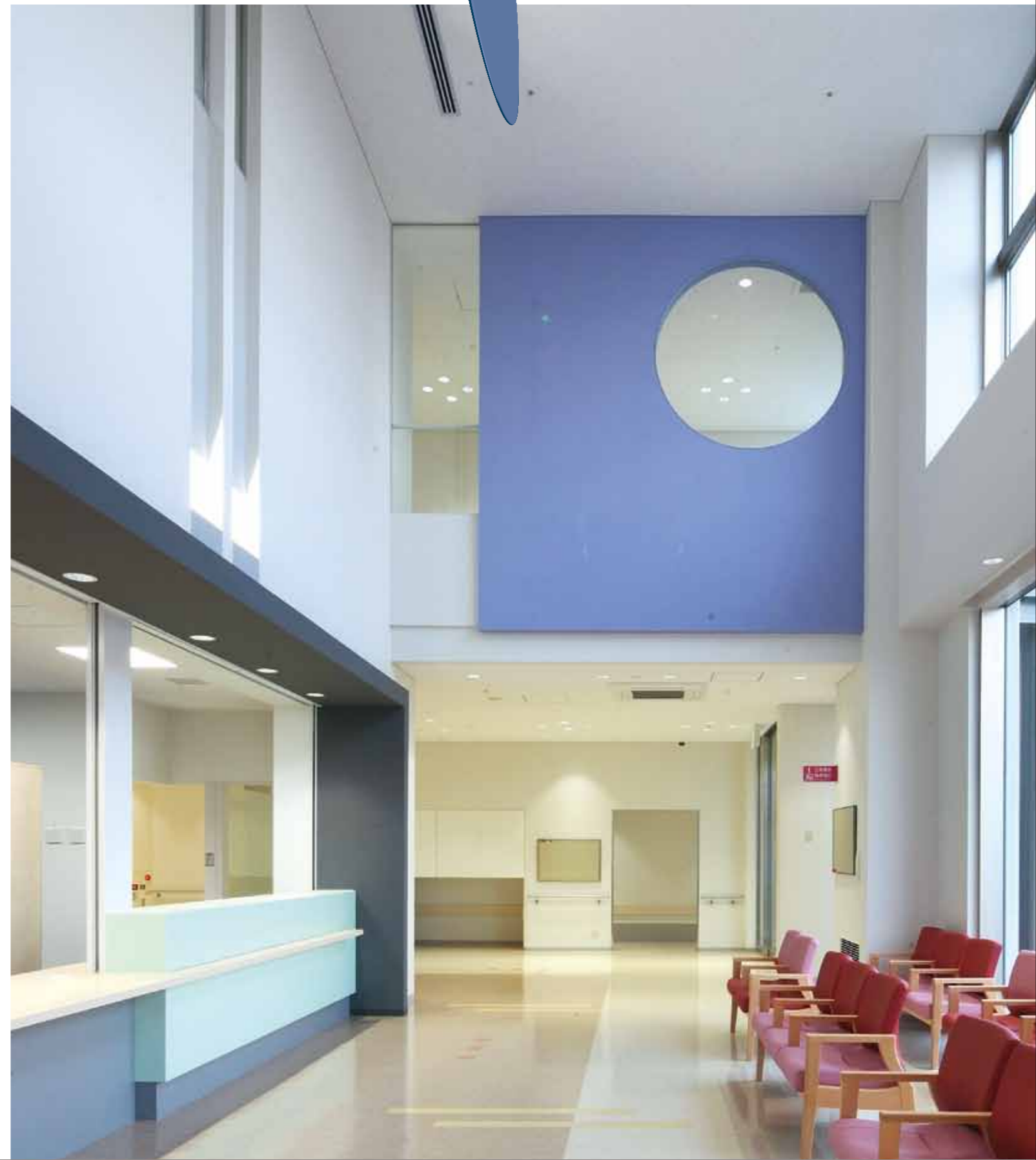
日本人は昔から、木と生活を共にしてきました。木材は大量に降る雨の恵みを得て、日本で育つ唯一の構造素材です。香りや手触りなど、日本人が潜在意識で「心地よい」と思う感覚を、木は呼び覚ましてくれます。改めて、家づくりの知恵はこのような歴史と伝統の中にあり、五感を通して考えることが大事だということを再認識できました。

座談会では、当会会員の向山徹氏が設計された広島市内の住宅を紹介しながら、上野英二氏、当会社会活動委員長の細見恵氏を交えて広島の地勢や木材についての意見交換を行いました。



最後の質疑応答では、「木造建築を志したきっかけ」など、素朴な質問も多数飛び交い、大変盛り上がりしました。

「木造の良さが伝わってきた」といったアンケート回答からも、十分に講演会を楽しんでいただけたと思います。日本の木の住まいについての貴重なお話を聞くことができ、実りある講演会となりました。





## 表紙写真について

倉敷医療生活協同組合 玉島協同病院

- 設計施工/株竹中工務店
- 所在地/岡山県倉敷市玉島柏島
- 構造規模/R C, S / F 5
- 敷地面積/9,647㎡
- 建築面積/2,475㎡
- 延床面積/6,931㎡
- 竣工/平成26年10月

岡山県倉敷市の玉島港に近接した既存病院の老朽化と BCP 対応による、高台への移転計画です。

周辺地域の人々が輝いて暮らせ、安心して一生を終えることを支援する医療機関としての役割を新築移転によりさらに高めるため、これまでの外来、入院、在宅診療・療養（通所リハビリ・居宅介護支援他）機能の向上に加えて、透析施設を新設する施設構成です。

分かりやすい回遊動線とした明快なゾーニングで、北側からの安定した光が差し込む吹き抜けの外来待合や、外壁を雁行させて廊下側のベッドにも窓を配置して居住性を高めた病



室等を配置して、自然の移ろいの中で過ごすことができる計画としています。

波のきらめきや、点在する島々の連なりなどの穏やかで美しい風景や、恵みを与えてくれる瀬戸内の自然をモチーフとしたサインデザインをアクセントとし、自然とのつながりを大切にしたい、豊かな癒しの空間を創り出しています。

## 変更届けは提出していますか？

ご自宅の住所や勤務先が変更になられた方、登録事項の変更手続きをお忘れなく行って下さい。（士法では変更から30日以内に届け出ることが定められています。）建築士法の改正もあり、建築士としての正確な登録要件は非常に重要となります。

### ●建築士としての手続き

住所・勤務先の変更のみ→「○○建築士住所等の届出」を提出（郵送可）。お仕事を辞められた方も「勤務先無し」で手続きを行って下さい。

\*一級建築士/二級・木造建築士（広島県登録の方のみ）  
広島県建築士会ホームページから書式が取り出せます。

<http://www.k-hiroshima.or.jp/index.html>

\*二級・木造建築士（他県で免許登録されている方）  
登録されている都道府県で手続きを行って下さい。

★提出先：広島県建築士会・本部事務局  
〒730-0052 広島市中区千田町 3-7-47  
広島県情報プラザ 5F  
TEL：082-244-6830（代）

### ●建築士会会員としての手続き

建築士の免許登録の申請・変更をしても、広島県建築士会会員の登録内容が変更されませんので、広島県建築士会の変更も行って下さい。本部事務局まで FAX（082-244-3840）でお知らせ下さい。

## 平成27年度 定期講習について

当会では、（公財）建築技術教育普及センターが主催する「定期講習」の受講受付、講習運営を行っております。今後のスケジュールは以下のとおりです。

開催日	会場	受付期間 開始はいつでも 6/1(月)~	会場コード
10月7日(水)	福山 商工会議所	~9月18日(金)	6D-01
10月14日(水)	広島県 情報プラザ	~10月2日(金)	6D-02
11月18日(水)	広島県 情報プラザ	~10月30日(金)	6D-03 (DVD講習)
12月16日(水)	広島県 情報プラザ	~11月27日(金)	6D-04 (DVD講習)
平成28年 1月20日(水)	広島県 情報プラザ	~平成28年 1月5日(火)	6D-05
平成28年 2月17日(水)	広島県 情報プラザ	~平成28年 1月29日(金)	6D-06 (DVD講習)

### ◆受講申し込みの受付（郵送可）

広島県建築士会本部（広島市中区千田町 3-7-47-5F）

### ◆受講申込書の配布

配布中（HPからもダウンロードできます）

### ◆配布場所 広島県建築士会本部・福山支部 広島県建築士事務所協会

\*24年度(H24年4月~H25年3月)に受講された方は、2回目の講習になります。

\*新しく建築士登録をされた方（24年度(H24年4月~H25年3月)登録）で、設計事務所の建築士として登録している方は、この27年度中に1回目の受講義務があります。（以後3年度ごとに受講）

\*設計事務所の建築士として登録している者は、3年度ごとに「定期講習」を受講することが義務付けられています。

\*「定期講習」は「管理建築士講習」とは別のものです。「管理建築士講習」を受講して管理建築士として登録されている方も、「定期講習」は受講しなければなりません。

## 既存建築物の耐震診断・改修計画判定業務を行っています

（既存建築物耐震診断・改修等推進全国ネットワーク委員会加入）

- 指定確認検査機関
- 登録住宅性能評価機関
- 指定構造計算適合性判定機関
- 登録建築物調査機関
- 適合証明業務(フラット35)
- 長期優良住宅認定審査業務
- 住宅瑕疵担保責任保険業務
- 調査診断業務(耐震診断等)
- 耐震診断判定業務
- 住宅エコポイント関連業務
- すまい給付金関連業務

URL <http://www.jesupport.jp/>

皆様に、より良いサービスの提供に努めてまいります



株式会社 ジェイ・イー・サポート

代表取締役 石山 講

TEL:082-546-1378 FAX:082-249-7190

e-mail: [mail@jesupport.jp](mailto:mail@jesupport.jp)

支店:東京 営業所:呉

## 安全で安心な住まいづくりをサポートします。



- ◆ 建築確認・検査
- ◆ 住宅性能評価
- ◆ フラット35 適合証明
- ◆ 長期優良住宅技術審査
- ◆ 低炭素建築物技術審査
- ◆ 住宅かし担保責任保険  
住宅保証機構(株)（まもりすまい保険）  
(株)住宅あんしん保証（あんしん住宅瑕疵保険）  
(株)日本住宅保証検査機構（JIO わが家の保険）  
(株)ハウスジューメン（ハウスジューメン住宅かし保険）  
ハウスプラス住宅保証(株)（ハウスプラスすまい保険）



指定確認検査機関・登録住宅性能評価機関

株式会社 広島建築住宅センター

URL:<http://www.hkjc.co.jp>

本社 〒730-0013 広島市中区八丁堀 15-10  
TEL(082)228-2220 FAX(082)228-2231  
営業所 〒720-0034 福山市若松町 8-22  
TEL(084)928-3979 FAX(084)928-3974

## 入会金免除キャンペーン実施中!!

広島県建築士会会員増強推進チーム

広島県建築士会の会員の皆様、この機会に一人1名勧誘運動にご協力ください。

### ●新規加入者

入会金3,000円 免除

期間：平成27年3月~8月の6カ月間

### ●入会紹介者（建築士会会員）の所属支部へ

1,000円/人の交付金支給

期間：平成27年3月~平成28年2月の1年間

## CPD認定プログラム(4月の広島県内実施分)

3月20日現在

日時	プログラム名	単位	主催	連絡先
4/9	PDCA! 工事成績を管理する	6	インターウェブ	099-812-0677
4/17	「公共工事の建築積算について」~営繕積算方式~講演会	1	日本建築積算協会	082-221-9759
4/17	良質のコンクリート構造物を造るために必要な知識と技術	6	インターウェブ	099-812-0677
4/23	建物外皮性能に関わる断熱・遮熱技術セミナー	3	環境マテリアル推進協議会	03-3258-4188



# 『備中松山城・吹屋の町並み』見学会

三原支部 今井 秀樹

2月1日、三原市歴史的建造物調査研究会と合同で、岡山県高梁市で見学会を開催しました。山あいには残雪があり、小雪もちらちら舞う中、32名が参加しました。

「備中松山城」は山城で、標高460mの山頂にあるため、途中の駐車場から頂上まで歩いて行くことに。息切れをする人もおりましたが、何とか大手門跡に到着しました。大手門の右側には天然の岩盤の上に石垣があり、自然を活かした見事な造りに感心しました。

広島大学の佐藤大規模より、分かりやすく石垣と松山城の説明をして頂きました。この城は日本



3大山城の1つで、城跡が国の史跡に指定され、江戸時代に建造された天守、二重櫓、土塀の一部が国の重要文化財に指定されています。また日本100名城の1つでもあります。2層2階の複合式望楼型天守で、岩盤の上に建ち、西側からは3階に見える構造になっています。暖炉や御社壇(神棚)を設けているのが特徴で、合戦時に籠城するための山城であったようです。9月下旬から4月上旬の早朝には、天守から雲海が見られるとのことでした。

昼食後、バスで吹屋の町並み見学へ行きました。吹屋の「広兼邸」は江戸時代後期に小泉銅山とローハ(ベンガラ)の原料製造を営み、巨大な財を成した大野呂の庄屋、広兼家の2代目・元治が建てた巨大な邸宅で、『八つ墓村』などの映画ロケ地としても有名です。2,581㎡と広大な敷地に、総面積704㎡の建物があり、財力のすごさを感じました。城壁のような石垣と母屋・土蔵・桜門・長屋等が目前に迫り、圧巻です。

城壁は裏山の岩盤を切り出して築いたとか。大変な労

力をかけたようです。屋根瓦は職人を呼び寄せ、雄大な敷地内で焼いて作ったとされており、瓦は約1/2の重ねで、かなりの量の瓦を葺いた重く贅沢な造りでした。中庭には水琴窟があり、綺麗な音色に心が安らぎました。

次に笹畝坑道へ。坑道は地下300m、総延長80kmと広大ですが、3番坑道より下の部分(140m以降)が水没しているそうです。外は寒かったのですが、中は暖かかったです。江戸時代の採掘は手掘りで大変苦労したようですが、明治以後は三菱金属の経営となり、機械化されて日本3大鉱山の1つとなりました。

銅山の捨石である磁流鉄鉱(硫化鉄鉱)から偶然発見されたものがベンガラです。ベンガラの名前はインドのベンガルに由来していると言われていたそうです。建築でも使用されているベンガラですが、「ベンガラ館」を見学し、当時の大変な製造過程を知ることができました。

日帰りではありましたが、歴史的建造物のすごさを感じることができました。今後も同様な見学会を開催していきたいと思います。参加者の皆様、お疲れ様でした。

# 第3回ボランティア活動

県北支部 小又 正文



2月3日～5日、安芸高田市向原町寺山地区の多目的集会所で、建築士会県北支部が公共施設維持保全ボランティア活動を開催しました。建築士としての技能を生かし地域貢献を進める

ために、公共施設を対象に修繕やメンテナンスを実施。建築を快適に、また長く綺麗な状態でご利用いただけるよう、使われる方と実際にチェックし、設計・施工の不

備な部分、使用方法の不適切な所等を一緒に学ぶことを目的としています。

今回の修繕は玄関鍵の閉まりの調整、廊下・玄関・建具の壁に切れや膨れが生じていたのでクロスの張り替え、トイレ床のPタイルに割れがありましたので長尺シートに張り替え、トイレドアクローザーの閉まりが悪かったので調整をしました。

このたびの参加者は4人でしたが、皆さん張り切って工事をして下さいました。ありがとうございます。来年度も続けてまいりますので、よろしくお願いいたします。

# 第17回「建築なんでも探建隊」紙ぶるるで学ぼう!～建築士と考える防災対策～

福山支部 小森 由香子

2月15日、第17回となる今回の「建築なんでも探建隊」は、「紙ぶるる」を使って防災を考えるというテーマで開催しました。福山支部のあるこの福山市近郊は、幸いなことに災害の少ない地域で、長きにわたり大きな災害を経験したことがありませんでした。しかし近年は、先日の広島市で発生した甚大災害のように、「地震」や「台風」でなくても思いもよらぬ災害が発生します。このことを踏まえて、「防災」をテーマにしました。

参加者は子どもと大人で合計11名。はじめに、石巻へ視察に行った際のP.Pを見て頂き、次に「紙ぶるる」を作って建物の耐震の仕組みを体験学習し、レポートを書いてもらいました。最後に災害に関する問題を出し、体を使って三択から選ぶクイズ大会で災害を学んでもら

いました。

災害が少なく防災意識が低い福山での開催で、いかに啓発できるかと内容を検討しました。参加者も予想より少なかったのですが、「参加して良かった」という声が多かったので、開催して良かったと思いました。今後、「防災」として開催する方法としてはいろいろ課題を残しましたが、意識の低いこの地域で啓発活動をするのも大切なことではないかと思います。



## 尾道探訪 3

6月13・14日に尾道で開催される「青年・女性建築士の集い 中四国ブロック 広島大会」開催まで、あと2カ月余りとなりました。

尾道支部 米田 雅治

### 尾道の老舗旅館—その3 「西山本館」

「西山本館」は昭和5年4月創業で、旧出雲街道の起点近くに建つ老舗旅館です。出雲街道は石見にもつながる銀山街道でもありました。尾道の北、昔、荘園であった甲山や、三次、山陰からの特産物が集まり、ここから瀬戸内の海路を使って都へ運ばれました。この地域は古代から物流の要衝であり、尾道の中心地でありました。



建物はもともとあった商家の屋敷で、明治5年に建築、大正11年に増築されたと思われます。その後も増改築が繰り返され、真壁外壁の木造2階建とモルタル仕上

外壁の木造3階建の棟が、入口の門構え奥の中庭を囲むように複雑に組み合わされ、全ての客室が庭に面するように工夫されています。玄関に入ると、大林監督の映画「ふたり」の撮影にも使用された吹き抜けや電話室があり、3階には宴会もできる大広間があります。丁寧な仕上げの数寄屋風の和室の他、造船の町らしく船の修理で滞在する外国人船員の宿泊にも対応できる洋室を持つなど、港町の風情を醸す木造旅館です。

昨年、文化審議会は、「西山本館」の登録の審議・議決を経て、文部科学大臣に答申を行いました。間もなく官報告示にて登録有形文化財に登録される予定です。

宿泊だけでなく、3名以上で昼食・夕食の会食にも利用でき、地元の新鮮な魚介をふんだんに使った料理を堪能できます。詳しくは下記のHPを参照してください。  
<http://www.bbhn.jp/~nishi-hk/>

指定確認検査機関(中国地方整備局長指定第1号) 登録住宅性能評価機関(中国地方整備局長登録第5号) 登録建築物調査機関(中国地方整備局長登録第1号)

認定低炭素住宅 長期優良住宅 建築確認 住宅瑕疵保険 フラット35 適合証明 住宅性能評価 住宅省エネラベル

ハウスプラス中国は  
迅速、的確な審査で、皆様の建物の  
安全、安心をサポートします。



中国エリアをすっぴんカバーしています

Energyia  
ハウスプラス中国住宅保証株式会社  
<http://www.jutakuhosho.com/>

広島本店: 広島市中区国泰寺町1-3-32 国泰寺ビル1階  
TEL: 082-545-5607 FAX: 082-545-5608  
広島北支店: 広島市安佐南区西原6-9-40-7 TEL: 082-832-3310 FAX: 082-875-4330  
福山支店: 福山市西深津町1-10-1 TEL: 084-973-9143 FAX: 084-973-9146



## 住宅講演会「日本の木の住まい」 ～家づくりの知恵は伝統のなかにあった～

社会活動委員会 住宅研究会 柳田 真俊

2月28日(土)、広島市まちづくり市民交流プラザ「マルチメディアスタジオ」において、木造建築の設計・監理を主とし、家具の設計にも従事されている岐阜県高山市の上野英二氏(オークヴィレッジ木造建築研究所)を講師にお招きし、広島県建築士会住宅研究会と広島県木造住宅生産体制強化推進協議会が連携して講演会を開催しました。

今回は、学生を含む86名の方々が足を運び、熱い話に最後まで耳を傾けていました。



前述のオークヴィレッジとは、「人類と自然の共生進化」というビジョンを掲げ、「木」という再生可能な資源を活用し、伝統工法を進化させた技術を駆使して次世代まで受け継がれる作品を造り続けている組織です。

上野英二氏は、(1)土地の気候風土を読み取り豊かな空間を創造する「設計」(2)木をはじめ土・石・紙などの自然素材から生まれた「素材」(3)それを最大限生かす「技術」、この3つの基本的な考え方を基に、木の特性を最大限生かした家づくりを実践されています。

多数ある作品の中でも特に興味深かったのが、木造仮設住宅が復興住宅になる「合掌の家」です。この「合掌の家」は9坪の大きさで、金物等を使わない伝統的な工法を用いており、重機を使用せずに数人で組み立てることが可能です。また、一般的な仮設住宅は撤去の際には大量のゴミとなりますが、この家は最初に三角形の部分を「仮設」住宅として建て、その後その部分を2階として活用し、1階部分を新しく増築することで「復興」住宅として再利用することができます。木材を使用しているため、一般的な仮設住宅と比べて温かみがあり、心安らぐ空間となっています。



### 仮設から復興へ

～東北の地に「合掌の家」完成～

写真：齋藤 功

日本人は昔から、木と生活を共にしてきました。木材は大量に降る雨の恵みを得て、日本で育つ唯一の構造素材です。香りや手触りなど、日本人が潜在意識で「心地よい」と思う感覚を、木は呼び覚ましてくれます。改めて、家づくりの知恵はこのような歴史と伝統の中にあり、五感を通して考えることが大事だということを再認識できました。

座談会では、当会会員の向山徹氏が設計された広島市内の住宅を紹介しながら、上野英二氏、当会社会活動委員長の細見恵氏を交えて広島の地勢や木材についての意見交換を行いました。



最後の質疑応答では、「木造建築を志したきっかけ」など、素朴な質問も多数飛び交い、大変盛り上がりしました。

「木造の良さが伝わってきた」といったアンケート回答からも、十分に講演会を楽しんでいただけたと思います。日本の木の住まいについての貴重なお話を聞くことができ、実りある講演会となりました。

